

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立所沢特別支援学校		Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	今年度から義務制単独校となったことを踏まえ、上位目標である学校教育目標と合わせて見直しを進めている。学校の置かれた状況や児童生徒の実態、課題等を的確に把握した上で、教職員間で十分に共通理解を図り協議するなど、学校の特色を踏まえた適切かつ明瞭な学校像となるよう検討されている。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	前年度に将来構想プロジェクトチームが中心となって策定した「5年後の所沢特別支援学校に向けて一学校改革のアウトライン」に基づいて取り組むべき課題が具体的に示され、日々の教育活動の指針となる目標となっている。児童生徒の実態や保護者・教職員などの意見や要望、様々な資料を反映した、中期的な目標としてふさわしい簡明で優れたものとなっている。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会と学部・分掌・委員会が連携し、学校自己評価システムが組織的に運営されている。太田ステージ評価を中心に校内研修会・保護者研修会を実施して教職員全体の専門性を高め、組織的に児童生徒の指導・保護者や地域への支援に取り組むなど、評価項目や方策が、重点目標の達成に向けて本年度重点的に取り組むものとしてふさわしく、優れた取組が実践されている。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	児童生徒一人一人の客観的な実態・ニーズを的確に把握して保護者と共有し、個別の目標や手立てを具体的に記入できるように個別の指導計画（プランB）の様式を変更するなど様々な方策が実施され、成果も上がってきている。評価項目を達成するための具体的な方策が、課題の分析に基づいて策定・実施されており、組織的・効果的な取組となっている。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は組織力を高め、評価運営委員会などを通じて取組の進捗状況を把握し、学校自己評価システムを生かした学校経営に取り組んでいる。校長が状況に即して的確にリーダーシップを発揮し、課題の解決の方向を示している。目標の達成に向けて更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	評価項目の達成状況を学部・分掌等で十分時間を取って話し合い、検証している。年度評価・学校関係者評価などを基に課題を明確にして、次年度の目標・方策に適切に引き継いでおり、取組の改善・更新が継続的に行われている。	
特記事項			